

---

 特 集 II
 

---

日本の結婚と出生—第13回出生動向基本調査の結果から（その3）—

## 身近な人の結婚のとらえ方と結婚・子育てとの接触状況 —結婚観と結婚意欲に関する分析—

釜 野 さおり

第13回出生動向基本調査（独身者調査）のデータを用いて、未婚者の身近な人の結婚のとらえ方と結婚・子育てとの接触状況を把握し、年齢、教育レベル、就業形態、異性との交際状況、親との同別居と親の状況、結婚・家族観との関連をクロス集計表と順序回帰分析によって分析した。その結果、大学・大学院卒であると身近な結婚を肯定的に捉えるが、結婚・子育てとの接触は少ない、リベラルな結婚・家族観を持つ人の方が身近な人の結婚を否定的にとらえ、接触も少ないといった関連性が見いだされた。次に身近な人の結婚のとらえ方や結婚・子育てとの「接触」の状況と結婚意欲との関連を順序回帰分析によって分析し、社会経済的属性、結婚・家族観、異性との交際状況、同棲の有無、欲しい子どもの数をコントロールしても、結婚している友人を幸福だと見なすことと、周りに子育てをしている友人やきょうだいが多いことが結婚意欲を高めることがわかった。

### I. はじめに

本稿では、結婚観や結婚意欲の分析であり注目されてこなかった、身近な人の結婚のとらえ方や日常生活の中での結婚や子育てとの「接触」に焦点を当てる。結婚や家族に関する意識についての研究では、これまでに、独身でいること、同棲、離婚、結婚後の夫婦の役割などに対して、人々が一般的にどのように考えているのか、社会経済的属性によってこれらの考え方は異なるのか、考え方は時代によって変化しているのかといったことが分析されている（たとえば江原 2004, 早瀬 2005）。また結婚意欲については、社会経済的属性や結婚や家族に対する意識、結婚に伴うコスト感や負担感などをその規程要因として考慮した分析がなされている（たとえば福田 2006, 小林 2006, 岩間 1999, 釜野 2004 a）。ここでは、これまでに分析されてきたことに加え、きょうだいや友人など、身近な人の結婚生活や夫婦関係をどのようにとらえるのか、また結婚や子育てをしている人との接触が日々の生活の中であるのかということが、人びとの結婚観や結婚意欲を形作る要素になりうるのではないかと、との考えに基づいて、いくつかの分析を試みる。具体的には、(1)結婚を実際に経験したことのない未婚の人は、身近な人の結婚をどのようにとらえ、結婚や子育てとの接触をどの程度もっているのかを把握し、身近な人の結婚を肯定的にとらえるのはどのような属性を持つ人なのか、結婚や子育てについての情報に多く触れているのはどのような人たちなのかを探る。次に(2)身近な人の結婚のとらえ方や結婚・子育てとの「接触」の状況は、結婚意欲に関連しているのかどうかを検討する。

## II. 結婚観と結婚意欲に関わる先行研究

本稿での分析に関連ある研究には、身近な人の結婚のとらえ方の分析、それを結婚観と関連付けている分析、それを結婚意欲と関連付けている分析、そして結婚意欲の規程要因の分析などが含まれる。まず、身近な人の結婚のとらえ方の分析の一例としては、子どもから見た両親の結婚に関する心理学的研究が挙げられる。たとえば夏目（2006）は両親の夫婦関係の子どもの認知の研究において、夫婦間の親密性と、形を重んじる関係（形式的依存・保持）という側面に注目し、これらについての子どもの認知と子ども自身の異性関係との関連を調べた。その結果両親の関係を、互いに対する尊敬や信頼感によってコミットしていると認知する男性は、恋人に対しても自分から信頼感・積極的受容によってコミットする傾向があることや、両親の関係を形式的依存・保持によってコミットしていると見なす人は、男女ともに、自分の恋人関係においても形式的依存・保持によってコミットする傾向のあることなどが指摘された。その他には、子どもからみた親子関係の認知と親の夫婦関係の認知との関連性（宇都宮 1999）や、青年男女の不安感との関連性をみた研究（宇都宮 2005）も行われている。また家族社会学の領域においても、親の結婚の質や関係のあり方が子どもの結婚に与える影響を探る分析が行なわれており、育った家における関係性が「健全」であれば、実家から離れるために結婚や同棲を急ぐという傾向は少なくなること（Thorton 1991）、両親が離婚していない家庭で育った独身の男性はそうでない男性に比べ、結婚というものを大切だととらえる傾向があること（Mahay 2003）、親が離婚することは子どもの結婚の解消につながるような行動を増加させる傾向があること（Tallman 2001）などが見いだされている。

親の結婚が子どもの結婚に対する意識に与える影響に焦点を当てた研究は、1950年代にさかのぼる。Wallin（1954）は、子どもにとって最も継続的に触れる機会のある「結婚」は親の結婚であり、父と母の実際の行動に触れることを通して結婚はどのようなものなのか定義づけられていく、との前提に基づき、大学生の結婚に対する態度と両親の結婚のとらえ方との関連を分析した。その結果、親の結婚に対して肯定的であると結婚そのものにも肯定的であるという関連性が男性ではみられたが、女性ではみられなかった（Wallin 1954）。

身近な人の結婚のとらえ方と結婚意欲を関連付けた研究では、両親の結婚生活を良好とみているか否かと、結婚願望や子どもを持つ願望との関連を検討した心理学的な研究がある（市川 2005）。大学生のみを対象としたその分析では、統計的に有意な関連性は観察されなかった。また、質的アプローチを用いてその関連性を探る研究もなされている。たとえば釜野（2004b）はグループインタビューの分析から、「両親の夫婦関係がうらやましく自分もそのような関係を築きたいので、結婚したい」という考えがみられる一方で、親の夫婦関係を良くはとらえていないが、結婚したくないのではなく、どのような関係を目指せばいいのかわからないので、結婚に踏み切れないといったケースもあり、結婚意欲と

身近な人の結婚のとらえ方との関係は複雑であることを指摘している。同研究では、友人や知人の結婚をどのようにみているかによって、結婚への関心や結婚イメージが影響されることも描かれている。結婚して「大変になった」という友人が身近にいないので、「そんな風であれば自分も結婚したい」と思う場合もあれば、逆に、「結婚すると自由な時間がない、結婚は墓場だ」ということを友人から聞いているので、結婚したくないと考えるなど、なんらかの関連性のあることがわかっている（釜野 2004b）。

結婚意欲の規定要因をめぐる研究では、研究者の関心や用いるデータによって、さまざまな要因が分析されている。たとえば、基本的な社会経済的的属性である教育レベルや年齢に加え、親との同別居や離死別の状況、収入や就業形態などの経済的安定度や将来性を示す要因、異性との交際状況、同棲の有無、出生意欲、ジェンダー意識などが挙げられる。また「ライフスタイル」という枠組みで、仕事、趣味、消費、交際における社会経済的資源や（たとえば「仕事にやりがいを感じている」といった項目によって測定）や個人主義志向（岩間 1999）、自立志向、家事コスト感、育児コスト感（釜野 2004a）などの考え方を考慮したものや、勤務先の育児支援制度（福田 2006）や家事時間を考慮して分析したものもある（福田 2006）。

日本以外をベースにした研究に目を向けると、アメリカの独身の大学生を対象とした結婚意欲に関するある研究では、男女ともに親役割を重視することや、他者からどのように見られているかを気にかけることが結婚意欲を高め、女性ではより伝統的なジェンダー役割観をもつことが結婚意欲を高め、仕事をすることを評価することは、結婚意欲を低めているとの結果を示している（Blakemore et al. 2005）。

これらの先行研究から言えることは、身近な人の結婚をどうとらえるかを検討することによって結婚観や結婚意欲の理解を深まる可能性があるということであろう。本稿ではこれらの先行研究も念頭に置きながら、未婚の人が親や友人の結婚をどのようにとらえているのかに加え、日々の生活の中で、どの程度結婚や子育てとの接触があるのかを把握する。

### Ⅲ. 使用するデータと分析の方法

#### 1. データ

分析には、第13回出生動向基本調査の独身者調査のデータを用いる。本調査は、国立社会保障・人口問題研究所によって実施され、全国の18歳以上50歳未満の独身の人を対象に、2005年6月1日現在の状況を調査したものである。国勢調査地区を抽出単位とする2段階ラスタースAMPLINGによって抽出された12482人を調査客体とし、8734人から有効な回答を得た（有効回収率70.0%）（国立社会保障・人口問題研究所 2007）。ここで分析する結婚観や結婚意欲は、独身者の中でも、一度は結婚したが離婚や死別した人と、結婚を経験していない未婚の人では異なると考えられるので、今回は未婚の人のデータのみを用いて分析する。

## 2. 使用する変数と指標について

### (1) 身近な人の結婚・夫婦関係のとらえ方と日常での結婚・子育てとの接触状況

周囲の結婚・夫婦関係のとらえ方については下記の①と②，結婚・子育てとの接触状況については，③と④の質問への回答を用いる。

#### ・身近な人の結婚・夫婦関係のとらえ方

① 両親のような夫婦関係をうらやましく思う（「親の夫婦関係羨望」）

② 結婚しているまわりの友人をみると，幸せそうだと思う（「既婚友人の幸福認識」）

#### ・結婚・子育てとの接触状況

③ 同年代の友人やきょうだいに子どもを持っている人が多い（「子育てとの接触」）

④ 周囲の人やマスコミから，結婚や出産・子育てはたいへんだと聞くことが多い（「結婚・子育て情報との接触」）

①と②では，値の大きい方が，結婚をより肯定的にとらえることを表すように，③では結婚・子育てとの接触がより多いことを表すように，それぞれ1～4の得点を与える（1＝あてはまらない，2＝どちらかといえばあてはまらない，3＝どちらかといえばあてはまる，4＝あてはまる）。④は，結婚や子育てが「たいへんだ」という否定的なメッセージではあるが，コード化の過程では，結婚や子育てに関しての情報を得ている「量」を表すこととし，他の項目と同様に「あてはまらない」に1，「あてはまる」に4を与える。

なお，結婚意欲を従属変数とする分析（分析2）では，①から④の項目について，4＝「あてはまる」3＝「どちらかといえばあてはまる」に1（肯定的，接触多い），2＝「どちらかといえばあてはまらない」，1＝「あてはまらない」に0（肯定的でない，接触が多くない），ダミー変数として扱う。

### (2) 結婚意欲

結婚意欲については，本調査の結婚の意思についてたずねる3つの項目への回答を組み合わせることによって作成された6段階からなる「結婚への意識距離」の指標を用いる。この指標は，概念的に意味があるのみでなく，金子（2000）によって，何年後に結婚したいと考えているかということや，異性との交際状況など，他の結婚意欲に関連ある事項との相関も検証されている<sup>1)</sup>。この指標では，結婚意欲が低いと見なされる順に，一生結婚するつもりはない＝1，まだ結婚するつもりはない（理想の相手重視）＝2，まだ結婚するつもりはない（年齢重視）＝3，理想の相手なら（1年以内に）結婚してもよい（理想の相手重視）＝4，理想の相手なら（1年以内に）結婚してもよい（年齢重視）＝5，一年以内に結婚したい＝6の値を与える。

---

1) この指標は，以下の①～③の3つの質問項目に基づいて作成されている。①生涯の結婚意思（「自分の一生を通じて考えた場合，あなたの結婚に対するお考えは，次のうちのどちらですか」，1＝いずれ結婚するつもり，2＝一生結婚するつもりはない），②年齢重視か相手重視か（「同じく自分の一生を通じて考えた場合，あなたの結婚に対するお考えは，次のうちどちらですか」，1＝ある程度の年齢までには結婚するつもり，2＝理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない），③一年以内の結婚（「それでは今から一年以内の結婚についてはどのようにお考えですか」1＝一年以内に結婚したい，2＝理想的な相手が見つければ結婚してもよい，3＝まだ結婚するつもりはない）。

### (3) 社会経済的屬性変数

ここで検討する、個々人の社会経済的な背景を示す変数は、以下のとおりである。

- 年齢：クロス集計表での提示の際には5歳階級、多変量解析では実年齢を使用する。結婚意欲を従属変数とした分析（分析2）では、年齢の二乗も含める。
- 教育レベル：中学校卒、高校（共学）卒、高校（別学）卒、専修学校（高卒後）卒、短大・高専卒、女子大学卒、大学（共学）・大学院卒
- 就業形態：正規の職員、パート・アルバイト、派遣・嘱託・契約社員、自営業主・家族従業者・内職（以下、文中では自営業主等と表記）、無職・家事手伝い（以下、文中では無職と表記）、学生
- 父親・母親の同別居および回答者の親との同居状態：A「両親と同居または片親同居・片親死亡」（以下、「両親と同居」と略記）、B「一方の親と同居し、もう一方の親と別居している」（以下「片親が別居」と略記）、C「片親のみ不詳」、D「両親とも別居または死別または不詳」

この分類は回答者の父親と母親それぞれとの同別居状況に基づいている。この調査では親の夫婦関係のとらえ方や結婚意欲に関連していると思われる、両親が離婚・離別しているか否かについて直接たずねていないが、上記の分け方をすることによって、ある程度の推測が可能であると考え。Aは回答者が両親と同居しているので、父親と母親は同居していることが明らかである。回答者が片方のみと同居し、もう片方が死亡している場合も、離婚や離別とは異なる死別という事情があるため、「両親と同居」に含める。Bでは、回答者は片方の親と同居しているが、もう一方の親とは別居しているので、両親は離婚などの理由で同居していないと見なす。Cは、一方の親については、同居、別居、死亡のいずれかに回答したが、もう一方の親については回答しなかった（不詳）の場合であり、一方の親の行方が知られていない、あるいは離婚しているなどの事情があって回答を拒否した可能性もあると考え、別カテゴリーとして扱うこととする。最後のDはその他の場合であり、両親ともすでに死亡している、回答者が父親からも母親からも別居している、あるいは父親と母親の双方について回答しなかったグループで、両親が離婚しているか否かの推測はできない。ただしDでは回答者がどちらの親とも同居していないことが明らかであるため、Aとは区別する。

- 異性との交際状況：交際している異性はいない、友人として交際している異性がいる、恋人として交際している異性がいる、婚約者がいる

結婚意欲に関する分析では、以下の変数も含める。

- 欲しい子どもの数：0人～5人（5人以上を含む）
- 同棲の有無（現在同棲しているか否か）

### (4) 結婚・家族観

結婚・家族観の指標には、「生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない」「男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである」「どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ」「結婚したら、家族のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にす

るのは当然だ」「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」「結婚したら、子どもは持つべきだ」「少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい」「いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない」の8項目の平均値を用いる<sup>2)</sup>。

ここでは、法律婚の形で結婚し、結婚したら子どもを持ち、離婚はせず、夫は仕事・妻は家庭を守る形のジェンダー役割や母親が家にいて子育てをすることを重視し、家族のために自己犠牲にすることを当然視し、男らしさ・女らしさを重視する考え方を、「従来の考え方」として括る。逆にそうでない考え方、つまり法律婚することや離婚をしないこと、子どもを持つこと、夫＝仕事、妻＝家庭という形のジェンダー役割、母親が家で子育てに専念すること、男らしさ・女らしさなどを重視しない考え方を、「リベラルな考え方」ととらえる。各項目の選択肢は、「まったく賛成」、「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば反対」、「まったく反対」の4段階尺度で、値の大きい方が、よりリベラルな考え、小さい方が従来の考えを示すように1から4の得点を与える。たとえば生涯独身の項目では、「まったく賛成」に1、「まったく反対」に4を与える。

### 3. 分析の方法

本稿では身近な人の結婚のとりえ方について、①親の夫婦関係と②友人の関係のとりえ方の2つの対象を取り上げる。また、結婚や子育てとの「接触」については、人を通しての接触（結婚や子育てをしている人との接触）と、情報との接触（結婚や子育てについて周囲から聞いていることなど）の2つの側面に注目し、具体的には③身近な人に子育てをしている人がいるかと④結婚や子育てに関する情報との接触の状況を見る。これらの4項目について、年齢階級、教育レベル、就業形態、親との同別居・親夫婦の同別居状態、異性との交際状況とのクロス集計表による分析と多変量解析を行い、パターンを観察する（分析1）。また、上記の身近な人の結婚に対する見方や、日常生活での結婚との接触の度合いが、結婚意欲に関連しているのかを多変量解析によって探る（分析2）。ここで検討する身近な人の結婚のとりえ方、結婚・子育てとの接触の状況、および結婚意欲の規定要因のありかたは、男女で異なると思われるので、分析は男女別に行う。

#### (1) 分析1

##### 1) クロス集計表による分析

まず、①親の夫婦関係羨望、②既婚友人の幸福の認識、③子育て中の人との接触、④結婚・子育ての情報との接触のそれぞれと、上で挙げた社会経済的屬性との関連をクロス集

---

2) この8項目と「結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない」「結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである」の10項目（本調査における意識の項目すべて）について、男女別に主成分分析を行った。抽出された成分は1つで、全項目で、因子負荷量が0.7以上であった。次にこれらの全項目からなる尺度の信頼性係数クロンバック $\alpha$ を求め、各項目が削除された場合の係数も検討した結果、男女とも上記2項目を除外した方が尺度の信頼性が高くなるため、これらを除外した上記8項目からなる尺度を用いることにした。クロンバック $\alpha$ は男性で0.752（全項目では0.689）、女性で0.756（全項目では0.717）である。

計する。顕著な特徴をつかむため、場合によっては、「どちらかといえば」という中間的な回答ではなく、「あてはまらない」（身近な人の結婚を否定的にとらえる、結婚・子育てとの接触が少ないことを示す）と「あてはまる」（身近な人の結婚を肯定的にとらえる、結婚・子育てとの接触が多いことを示す）の回答に注目する。

クロス集計表では、これらの項目の非該当および不詳を除いて分析する。①～④の「非該当」は、各問の内容に該当しない回答者が選ぶことのできる選択肢として設けられたものである。たとえば①では、両親と暮らしてこなかったために、両親の夫婦関係について答えることが不可能な人、②では対象となる結婚している友人やきょうだいが周りにいないといった状況を想定したものである<sup>3)</sup>。

社会経済的属性変数についても、不詳を除いた集計を提示する。ただし、親の状況については、上記で説明したように、「不詳」を、回答のなかったこと自体に意味があるものとして扱っている。

## 2) 各項目の社会経済的属性等による多変量解析

次に、社会経済的属性および異性との交際状況などのうち、①～④の項目と関連のあるのはどの要因かを検討するために、多変量解析を行う。この4項目は、順序のついたカテゴリカル変数なので、それぞれを従属変数とした順序回帰分析（モデル式にはロジットを使用）を適用する（石村，謝，久保田 2003）。

### (2) 分析 2

次に分析1で検討した身近な人の結婚のとらえ方や結婚・子育てとの接触が、結婚意欲に関連あるのかを分析する。親や友人の結婚を肯定的にとらえる人ほど、また、結婚・子育てをしている人との接触が多い人ほど、結婚意欲が高いと予想される。結婚・子育てについてマスコミや周囲の人からたいへんだと聞いていることについては、前述のとおり、結婚や子育てについての情報を得ているが、その内容が否定的なものなので、結婚意欲にどちらの方向に関連するかは、予想することは難しい。

結婚意欲の指標（結婚への意識距離）を順序のついたカテゴリカル変数として扱い、順序回帰分析を行う。説明変数として、①親の夫婦関係羨望、②既婚友人の幸福の認識、③子育て中の人との接触、④結婚・子育ての情報へ接触をダミー化したものを同時に投入する。コントロール変数として、年齢、年齢の二乗、親との同居状況・両親の同別居状況、教育レベル、就業形態、結婚・家族観、異性との交際状況、欲しい子どもの数、現在同棲しているか否かを考慮する。なお、収入も結婚意欲の重要な規定要因として考えられるが、

---

3) それぞれの項目における非該当と不詳（カッコ内）の割合は、①では男性7.5%（6.1%）、女性8.0%（5.0%）、②男性14.2%（6.3%）、女性13.5%（5.0%）、③男性13.5%（5.9%）、女性13.3%（4.4%）、④男性6.1%（6.3%）、女性3.4%（4.7%）である。②の結婚している周りの友人についての質問の非該当の割合は高く、年齢別にみると、18～19歳では4割以上、20代前半では男性23%、女性16%で、他の年齢層では2～6%である。20代前半では実際に結婚している人が少ないため、この割合が高いことは、妥当であると思われる。しかし、③は同年代の友人やきょうだいに子どもを持っている人が多いかどうかをたずねる質問であり、本来なら年代に関わらず回答できるものであるが、②とほぼ同じ割合の非該当がみられる。②で非該当だった人の6割が③でも非該当であることから、これらの回答者は同年代に子どもを持っている人が多いこと否定する意味で非該当を選んだ可能性も考えられる。

他の変数よりも不詳回答が多いこと、また、就業形態との相関が高いため、分析には用いないことにした。年齢については、結婚意欲と逆U字型の関連があることが先行研究でも指摘されているため（金子 2000）、ここでは年齢の実数に加え、年齢の二乗も投入する。

#### IV. 分析結果

##### 1. 分析1：身近な人の夫婦関係のとらえ方と結婚との「接触」状況の概観の結果

###### (1) クロス集計表による分析

①の親の夫婦関係をうらやましいと思うかに対する回答をみると（表1）、全体では、明らかに肯定的なとらえ方をする人の割合も、否定的なとらえ方をする人の割合も、男女ともに約2割程度である。ただし中間回答をみると、どちらかといえばあてはまる（＝3）の回答が3割強で、どちらかといえばあてはまらない（＝2）の2割よりも割合が少し高く、肯定的な捉え方をする人の方が多いといえる。年齢別でみると、30歳台から40歳台にうらやましく思わないとする回答が少し多くなっている（1＝あてはまらないが20～26%）。教育レベル別では、中学校卒の男女の3割以上が「あてはまらない」と回答しており、親の結婚を否定的にとらえる傾向が比較的強い。異性との交際状況によってみると、男女とも婚約者のいる人は、親の関係を肯定的にとらえる割合が高い（4分の1程度）。両親の状況によってみると、男女とも「片親のみ別居」の場合は4割以上、「片親のみ不詳」の場合は女性で4割、男性で46%と、親の関係を否定的にとらえている人の割合は全体に比べて2倍以上である。

②の結婚している友人が幸せそうかどうかへの回答をみると、全体では肯定的な回答がやや多くなっている。友人の結婚を明らかに肯定的にみている人（4＝あてはまる）は男女とも2割弱、やや肯定的にみている人（3＝どちらかといえばあてはまる）は45%前後で、併せて6割以上である一方で、明らかに否定的な見方をする人（1＝あてはまらない）は1割程度、やや否定的な見方をする人（2＝どちらかといえばあてはまらない）は4分の1である。年齢別にみると、男女とも20代後半の人は、肯定的にとらえている人の割合がやや高め（2割以上）である。教育レベルによってみると、女性では否定的なとらえ方をする割合が中学校卒で17%、男性では短大・高専卒で8%と、それぞれ他のグループよりもやや高めである。就業形態別では、自営業主等の女性で友人の結婚を否定的にとらえる割合が約2割で、他の就業形態の人よりも高めである。また男女とも異性の恋人や婚約者のいる人の方が、友人の結婚を否定的にとらえる人の割合が低い傾向がある。

結婚・子育てとの接触の状況についてみると（表2）、まず、③の子どもを持っている友人やきょうだいが多くかどうかでは、男女とも明らかに多いという人（4＝あてはまる）も明らかに少ないという人（1＝あてはまらない）も2割程度、中間回答もそれぞれ3割程度で、多い人と少ない人がまんべんなく散らばっているといえる。属性別にみると、男女とも若い人の方が、子育てをしている人が周りに少ないと認識しており、20歳未満の男性では6割以上、女性では5割近くである。教育レベル別では、大学・大学院卒の男女と







女子大学卒の女性は、周りに子育てをしている人が少ないととらえている人が多い（3割前後）。就業形態別では、男女とも学生の約半数、男性のパート・アルバイトの約4分の1が、子育てしている人が周りに少ないととらえている。一方、自営業主等の男性では3分の1、正規の職員および無職の男性では4分の1が、周りに子どもを持っている人が多いととらえている。女性では、自営業主等と無職の人の3割程度が、周りに子どもを持つ人が多いととらえている。異性との交際状況によってみると、婚約者のいる男女では、周りに子どもを持つ人が少ない（1＝あてはまらない）と答えた人が1割と低い。また「片親のみ別居」の場合は、周りに子どもを持った人が多いととらえる人が男女とも約3割と、やや高い。

④の結婚、出産、子育てがたいへんだと聞いているか、については、全体では「あてはまる」が3割、「どちらかといえばあてはまる」が4割以上と、たいへんだと聞いているという回答が併せて8割近くである。属性別にみると、男性は年齢の低い人に「聞いていない」が多い。教育レベルでは、中学校卒の女性に、聞いていないと答える人が多い（1割）。就業形態では、男女とも学生に聞いていないという回答が多い。交際状況によってみると、婚約者のいる女性の4割以上がたいへんだと聞いている（4＝あてはまる）と回答し、他よりも高めである。

以上、クロス集計表による結果を要約すると、親の夫婦関係をうらやましく思う傾向があるのは、10代と20代の女性、30代前半の男性、婚約者のいる男女で、逆にうらやましく思わない傾向を示したのは、30～40代の女性、中学校卒の男女、「片親のみ別居」「片親のみ不詳」の男女である。②の結婚している友人を幸せそうに思う傾向があるのは20代の女性と異性の恋人または婚約者のいる男女で、逆にそう思わない傾向を示したのは、30代以上の女性、中学校卒の女性、短大・高専卒の男性、自営業主等の女性、学生である。

③の子育てをしている人との接触については、接触が多いととらえている人の割合が特に高いのは、自営業主等の男性である。また、年齢の高い男女、別学高校卒の女性、自営業主等の女性、無職の女性、「片親のみ別居」の男女、婚約者のいる男女も、子育てとの接触が比較的多く、逆に接触が少ないのは、男女とも大学・大学院卒と学生、女子大学卒の女性である。④の情報との接触は、30歳台後半の男女、中学校卒の男女、婚約者のいる女性に多く、学生では少ないという特徴がみられた。

## (2) 各変数を従属変数とした順序回帰分析の結果

ここではそれぞれの項目について、順序回帰分析を適用した結果について統計的に有意な係数に注目し、各項目を規定している要因についてみていく。上記(1)の分析でみられた関連性が、ここでもみられるのか、あるいはここでみられたものとは異なる関連性がみられるのか、ということにも注目する。

### ① 親の夫婦関係羨望と社会経済的属性変数の関連

親の夫婦関係をうらやましく思うか否かを従属変数とした分析結果は、表3に示すとおりである。まず、親が離別等していることを間接的に示す「片親のみ別居」および「片親のみ不詳」の場合は、男女とも親の関係を否定的にとらえていることが確認できる。その

表3 親の夫婦関係をうらやましいと思うかの順序回帰分析の結果

|                            | 男性         |       | 女性         |       |
|----------------------------|------------|-------|------------|-------|
|                            | B          | 標準誤差  | B          | 標準誤差  |
| 年齢                         | -0.013 *** | 0.005 | -0.025 *** | 0.006 |
| 教育レベル                      |            |       |            |       |
| #共学高校                      | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| 中学卒                        | -0.684 *** | 0.163 | -0.689 *** | 0.240 |
| 別学高校                       | -0.036     | 0.132 | 0.192      | 0.146 |
| 専修学校                       | 0.208 +    | 0.113 | -0.037     | 0.118 |
| 短大・専門学校                    | 0.285 +    | 0.152 | 0.123      | 0.102 |
| 女子大                        | /          |       | 0.087      | 0.151 |
| 大学                         | 0.381 ***  | 0.083 | 0.191 +    | 0.107 |
| 就業形態                       |            |       |            |       |
| #正規職員                      | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| パート                        | -0.042     | 0.117 | -0.190 +   | 0.107 |
| 派遣                         | -0.200     | 0.138 | -0.061     | 0.113 |
| 自営                         | 0.028      | 0.130 | 0.183      | 0.221 |
| 無職                         | -0.018     | 0.129 | -0.081     | 0.137 |
| 学生                         | -0.100     | 0.106 | -0.062     | 0.106 |
| 異性との交際状況                   |            |       |            |       |
| #交際している異性なし                | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| 友人として異性と交際                 | 0.096      | 0.094 | -0.104     | 0.103 |
| 恋人として交際                    | 0.118      | 0.081 | -0.049     | 0.078 |
| 婚約者あり                      | 0.221      | 0.199 | 0.177      | 0.167 |
| 親との同居・親の状況                 |            |       |            |       |
| 同居-同居・同居-死亡                | 0.153 *    | 0.074 | 0.006      | 0.083 |
| #両親とも不詳・別居・死亡, 別居-死亡       | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| 一人の親のみ別居(同居-別居)            | -1.080 *** | 0.183 | -1.252 *** | 0.229 |
| 一人の親についてのみ不詳               | -1.190 *** | 0.213 | -0.952 *** | 0.178 |
| 結婚・家族観                     | -0.754 *** | 0.069 | -0.560 *** | 0.068 |
| 切片1                        | -3.239     | 0.236 | -3.418     | 0.257 |
| 切片2                        | -1.950     | 0.231 | -2.282     | 0.252 |
| 切片3                        | -0.014     | 0.229 | -0.642     | 0.249 |
| ケース数                       | 3574       |       | 3250       |       |
| $\chi^2$ 乗値                | 281.2 ***  |       | 173.9 ***  |       |
| 自由度                        | 18         |       | 19         |       |
| 疑似決定係数 $R^2$ (Cox & Snell) | 0.084      |       | 0.058      |       |

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , +  $p < .10$ . #は、レファレンスカテゴリーを示す。

パート・アルバイトの場合は正規職員に比べ、親の関係を否定的にとらえる傾向がある。男女とも、年齢が高い人ほど、また結婚・家族観がリベラルな人ほど、親の夫婦関係を否定的にとらえる傾向がある。

男女ともに中学校卒の人が親の関係を否定的にとらえる傾向、女性については年齢が高い人ほど否定的にとらえるとの結果は、クロス集計表でもみられ、また、他の要因をコントロールしても同様の関連性がみられた。一方、男性にも年齢が高いほど親の関係をうらやましく思わない傾向があること、男女ともに大学・大学院卒の人にうらやましく思う傾向があること、その他の教育レベルとの関連もあること、また、男性では親と同居している場合、女性では正規の職員の場合にも、親の関係をうらやましく思う傾向があることは、クロス集計表では観察されなかったが、他の要因をコントロールしたことによって、明らかになった。またクロス集計表でみられた、婚約者のいる人の方が親の関係をうらやましく思う傾向は、他の要因を考慮した場合には見られなかった。

## ② 既婚友人の幸福感の認識と社会経済的属性変数の関連

次に、結婚している友人を幸せそうだと思うか否かについての分析結果を表4に示す。女性では若い人の方が、結婚している友人を幸せだにとらえる傾向がみられるが、男性では年齢との関連はみられない。結婚・家族観との関連もみられ、男女とも従来の考えを

他の変数との関連については、親の状況をコントロールした上においても、次のような関連性がみられる。中学校卒の場合、男女とも親の夫婦関係をうらやましく思わない傾向がみられる。逆に男女ともに、大学・大学院卒、男性のみで専修学校卒あるいは短大・専門学校卒の場合は、親の結婚を肯定的にとらえる傾向がみられる。また男性では両親と同居している場合も、肯定的にとらえるとの結果がみられる。女性では、

表4 結婚している友人は幸せそうに見えるかの順序回帰分析の結果

|                            | 男性         |       | 女性         |       |
|----------------------------|------------|-------|------------|-------|
|                            | B          | 標準誤差  | B          | 標準誤差  |
| 年齢                         | -0.005     | 0.005 | -0.020 *** | 0.006 |
| 教育レベル                      |            |       |            |       |
| #共学高校                      | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| 中学卒                        | -0.004     | 0.161 | -0.142     | 0.248 |
| 別学高校                       | 0.105      | 0.135 | 0.268 +    | 0.152 |
| 専修学校                       | 0.074      | 0.119 | 0.168      | 0.124 |
| 短大・専門学校                    | 0.298 +    | 0.161 | 0.391 ***  | 0.107 |
| 女子大                        |            |       | 0.310 +    | 0.165 |
| 大学                         | 0.223 ***  | 0.087 | 0.401 ***  | 0.114 |
| 就業形態                       |            |       |            |       |
| #正規職員                      | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| パート                        | -0.181     | 0.123 | -0.125     | 0.111 |
| 派遣                         | -0.102     | 0.141 | 0.105      | 0.115 |
| 自営                         | -0.081     | 0.132 | -0.392 +   | 0.217 |
| 無職                         | -0.237 +   | 0.135 | 0.010      | 0.142 |
| 学生                         | -0.586 *** | 0.125 | -0.552 *** | 0.122 |
| 異性との交際状況                   |            |       |            |       |
| #交際している異性なし                | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| 友人として異性と交際                 | 0.002      | 0.100 | -0.036     | 0.119 |
| 恋人として交際                    | 0.005      | 0.085 | 0.287 **   | 0.093 |
| 婚約者あり                      | 0.251      | 0.201 | 0.136      | 0.174 |
| 親との同別居・親の状況                |            |       |            |       |
| 同居-同居・同居-死亡                | -0.032     | 0.078 | 0.125      | 0.090 |
| #両親とも不詳・別居・死亡, 別居-死亡       | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| 一人の親のみ別居(同居-別居)            | -0.255     | 0.167 | -0.043     | 0.199 |
| 一人の親についての不詳                | -0.192     | 0.208 | -0.093     | 0.180 |
| 結婚・家族観                     | -0.995 *** | 0.073 | -0.770 *** | 0.080 |
| 切片1                        | -4.329     | 0.254 | -3.954     | 0.277 |
| 切片2                        | -2.815     | 0.246 | -2.391     | 0.270 |
| 切片3                        | -0.639     | 0.241 | -0.127     | 0.266 |
| ケース数                       | 2978       |       | 2733       |       |
| $\chi^2$ 乗値                | 215.5 ***  |       | 155.7 ***  |       |
| 自由度                        | 18         |       | 19         |       |
| 疑似決定係数 $R^2$ (Cox & Snell) | 0.070      |       | 0.055      |       |

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , +  $p < .10$ . #は、レファレンスカテゴリーを示す。

持つ人ほど、結婚している友人を幸せだととらえる傾向がある。また、大学・大学院卒の男性は、結婚している友人を肯定的にとらえる傾向がある。女性では共学大学・大学院卒の場合に加え、別学高校卒、短大・専門学校卒、女子大学卒の場合、結婚している友人を幸せだととらえる傾向がある。就業形態では、男性は無職の場合、女性はい営業主等の場合、それぞれ正規職員に比べて既婚の友人を幸せだととらえない

傾向がみられる。また、女性のみで異性の恋人がいる人は結婚している友人を幸せそうだととらえる傾向がある。

女性については、先のクロス集計表による分析においてみられた、年齢の若い人の方が結婚している友人を肯定的にとらえる傾向と、自営業主等の女性で否定的にとらえる傾向は、他の要因をコントロールした順序回帰分析の結果においてもみられた。しかしクロス集計表では男女ともにみられた、異性の恋人や婚約者のいる人が肯定的にとらえる傾向は他の要因をコントロールすると、男性ではみられない。さらに男女とも年齢等をコントロールすると、友人の関係を肯定的にとらえる人が学生では少ない傾向や、中学校卒の女性と短大・高専卒の男性が結婚している友人を幸せだととらえる傾向は、ここではみられない。

### ③ 子育て中の友人・きょうだいとの接触と、社会経済的属性との関連

表5に、周りに子どもを持つ友人・きょうだいが多いかどうかについての分析結果を示す。年齢が高い人の方が子どものいる友人・きょうだいが多く、学生である場合は少ない傾向が、男女ともにみられる。これらは客観的な状況と一致しているため、当然の結果といえよう。教育レベルとの関連をみると、クロス集計表でみた場合と同様に、男女とも大学・大学院卒の人、女性では女子大卒、短大・高専卒の場合に、共学高校卒の人に比べて周りに子どもを持つ人が少ない傾向がある。その他の要因をみると、男性では自営業主等

表5 子育て中の友人やきょうだいが多いかの順序回帰分析の結果

|                                    | 男性         |       | 女性         |       |
|------------------------------------|------------|-------|------------|-------|
|                                    | B          | 標準誤差  | B          | 標準誤差  |
| 年齢                                 | 0.129 ***  | 0.006 | 0.119 ***  | 0.006 |
| 教育レベル                              |            |       |            |       |
| 中学卒                                | 0.044      | 0.163 | 0.289      | 0.238 |
| #共学高校                              | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| 別学高校                               | -0.113     | 0.135 | -0.022     | 0.152 |
| 専修学校                               | -0.060     | 0.118 | -0.060     | 0.123 |
| 短大・専門学校                            | 0.088      | 0.159 | -0.288 **  | 0.105 |
| 女子大                                | /          | /     | -0.610 *** | 0.163 |
| 大学                                 | -0.402 *** | 0.087 | -0.886 *** | 0.113 |
| 就業形態                               |            |       |            |       |
| #正規職員                              | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| パート                                | -0.063     | 0.122 | -0.017     | 0.109 |
| 派遣                                 | -0.037     | 0.137 | 0.142      | 0.112 |
| 自営                                 | 0.300 *    | 0.130 | 0.023      | 0.218 |
| 無職                                 | -0.079     | 0.134 | 0.155      | 0.140 |
| 学生                                 | -0.561 *** | 0.128 | -0.449 *** | 0.122 |
| 異性との交際状況                           |            |       |            |       |
| #交際している異性なし                        | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| 友人として異性と交際                         | 0.194 +    | 0.100 | 0.106      | 0.108 |
| 恋人として交際                            | 0.293 ***  | 0.084 | 0.231 **   | 0.082 |
| 婚約者あり                              | 0.332      | 0.196 | 0.418 *    | 0.167 |
| 親との同居・親の状況                         |            |       |            |       |
| 同居-同居・同居-死亡                        | 0.203 **   | 0.078 | -0.288 *** | 0.090 |
| #両親とも不詳・別居・死亡, 別居-死亡               | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| 一人の親のみ別居(同居-別居)                    | 0.268      | 0.168 | -0.139     | 0.195 |
| 一人の親についての不詳                        | 0.175      | 0.202 | -0.496 **  | 0.178 |
| 結婚・家族観                             | -0.633 *** | 0.072 | -0.511 *** | 0.071 |
| 切片1                                | 0.886      | 0.244 | 0.120      | 0.265 |
| 切片2                                | 2.473      | 0.245 | 1.723      | 0.265 |
| 切片3                                | 4.119      | 0.254 | 3.294      | 0.272 |
| ケース数                               | 3774       |       | 3250       |       |
| $\chi^2$ 乗値                        | 942.0 ***  |       | 790.8 ***  |       |
| 自由度                                | 18         |       | 19         |       |
| 疑似決定係数R <sup>2</sup> (Cox & Snell) | 0.268      |       | 0.249      |       |

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05, + p<.10. #は、レファレンスカテゴリーを示す。

家族観については、男女ともリベラルな考えをする人の方が、周りに子どもをもつ人が少ないととらえている。

これらの関連性のうちクロス集計表でも観察されたものは、男性と女性の双方で、学生であることと大学・大学院卒であること、女性については女子大卒の場合と「片親のみ不詳」の場合、男性については自営業主等の場合と両親と同居している場合の関連である。クロス集計表ではみられなかったが、順序回帰分析の結果では認められるものは、女性の短大・高専卒の場合の結果と親と同居している場合の結果で、逆にクロス集計表ではみられたが、ここでの分析結果では見られないものは、男性の「片親のみ不詳」と異性の恋人を持つ場合についての結果である。

#### ④ 結婚・子育てに関する情報との接触と、社会経済的属性の関連

結婚・出産・子育てはたいへんだとマスコミや周囲から聞くことが多いかに関する分析結果は表6のとおりである。クロス集計表による分析は、男女とも、30代後半に情報との接触の多い傾向がみられたが、他の要因をコントロールすると、年齢による違いはみられない。同じくクロス集計表では、学生で結婚・子育ての情報との接触が少ない特徴がみられたが、ここでは関連性はみられない。教育レベルとの関連は、男女ともクロス集計表でみられたように、大学・大学院卒であると、結婚や子育てについての情報との接触が少な

の場合と両親と同居している場合に、子どもを持つ人が多いととらえる傾向がみられる。また「片親のみ不詳」であると子どもを持つ人との接触が少ない傾向が、女性のみでみられる。女性では、男性の場合とは逆に、同居していると周りに子どもを持つ人が多いととらえる人が少ないとの結果がみられる。異性との交際状況との関連をみると、異性の恋人のいる女性は子どもを持つ人が多いととらえる傾向がみられる。結婚・

表6 マスコミや周囲の人から結婚・子育てはたいへんだと聞いているかの順序回帰分析の結果

|                            | 男性         |       | 女性        |       |
|----------------------------|------------|-------|-----------|-------|
|                            | B          | 標準誤差  | B         | 標準誤差  |
| 年齢                         | 0.006      | 0.005 | 0.005     | 0.006 |
| 教育レベル                      |            |       |           |       |
| 中学卒                        | -0.042     | 0.160 | 0.122     | 0.233 |
| #共学高校                      | 0.000      | 0.000 | 0.000     | 0.000 |
| 別学高校                       | -0.020     | 0.132 | 0.035     | 0.146 |
| 専修学校                       | 0.023      | 0.114 | 0.076     | 0.118 |
| 短大・専門学校                    | -0.300 *   | 0.153 | -0.088    | 0.102 |
| 女子大                        |            |       | -0.205    | 0.152 |
| 大学                         | -0.254 **  | 0.084 | -0.209 *  | 0.106 |
| 就業形態                       |            |       |           |       |
| #正規職員                      | 0.000      | 0.000 | 0.000     | 0.000 |
| パート                        | 0.064      | 0.117 | -0.139    | 0.107 |
| 派遣                         | -0.072     | 0.138 | 0.072     | 0.112 |
| 自営                         | -0.028     | 0.129 | 0.018     | 0.214 |
| 無職                         | 0.086      | 0.132 | 0.007     | 0.137 |
| 学生                         | -0.162     | 0.108 | -0.017    | 0.107 |
| 異性との交際状況                   |            |       |           |       |
| #交際している異性なし                | 0.000      | 0.000 | 0.000     | 0.000 |
| 友人として異性と交際                 | 0.071      | 0.095 | -0.037    | 0.102 |
| 恋人として交際                    | 0.161 *    | 0.081 | 0.124     | 0.078 |
| 婚約者あり                      | 0.300      | 0.198 | 0.404 **  | 0.167 |
| 親との同居・親の状況                 |            |       |           |       |
| 同居-同居・同居-死亡                | -0.097     | 0.074 | -0.060    | 0.083 |
| #両親とも不詳・別居・死亡、別居-死亡        | 0.000      | 0.000 | 0.000     | 0.000 |
| 一人の親のみ別居（同居-別居）            | -0.039     | 0.161 | 0.021     | 0.185 |
| 一人の親についてののみ不詳              | 0.009      | 0.194 | 0.007     | 0.169 |
| 結婚・家族観                     | -0.414 *** | 0.067 | -0.206 ** | 0.067 |
| 切片1                        | -3.333     | 0.239 | -3.058    | 0.257 |
| 切片2                        | -1.931     | 0.233 | -1.654    | 0.250 |
| 切片3                        | 0.038      | 0.230 | 0.313     | 0.248 |
| ケース数                       | 3574       |       | 3250      |       |
| $\chi^2$ 乗値                | 71.2 ***   |       | 34.4 ***  |       |
| 自由度                        | 18         |       | 19        |       |
| 疑似決定係数 $R^2$ (Cox & Snell) | 0.021      |       | 0.011     |       |

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , +  $p < .10$ . #は、レファレンスカテゴリーを示す。

クロス集計表ではみられなかったが、ここでの分析結果でみられたのは、恋人がいる男性に関する結果である。

ここで示した、社会経済的屬性変数等を同時に考慮した順序回帰分析のCox & Snellの疑似決定係数  $R^2$  の値は①から④のすべてで小さく、これらの変数では説明されない部分が多いことが明らかである。しかし、各変数の係数には統計的に有意なものとそうでないものがあり、いくつかのパターンが観察される。結婚・家族観との関連は、4項目すべてにおいて一貫して統計的に有意で、リベラルな考えを持つ人ほど、身近な人の結婚を否定的にとらえ、かつ結婚や子育てとの接触が少ないことがわかる。また、大学・大学院卒であることも、すべての項目において統計的に有意な結果を示し、大学・大学院卒の人は比較的親や友人の結婚を肯定的にとらえるが、子育て中の人や結婚・子育てに関する情報との接触は少ないことが読み取れる。教育レベルについては、さらに、短大・高専卒またはそれを上回る場合は、男女とも友人の結婚を肯定的にとらえる傾向がある。女性に関しては、周りに子育てをしている友人がいるかどうかとの関連もみられ、短大・高専卒以上であると、そのような友人やきょうだいが少ないとの結果がみられる。また学生は、友人の夫婦関係に否定的で、かつ周りにそのような人が少ないという特徴がみられる。年齢は低いほうが、周りの結婚を肯定的にとらえる傾向がある。恋人の有無は、男女ともに周

い傾向を示している。また、クロス集計表でみられたものと同様、婚約者がいる女性には情報との接触が多い傾向がみられる。結婚・家族観は、リベラルな人ほど、結婚・子育てに関する情報との接触が少なくいと認識される傾向がみられる。

上に挙げたもの以外で、クロス集計表ではみられたが、順序回帰分析の結果ではみられない関連は、中学校卒の人の接触が多い傾向と、男性の婚約者のいる人の関連である。逆にク

りに子育てをしている友人が多いかに、また女性では友人の夫婦関係のとらえ方に関連していることがみられる。

なお、親の夫婦関係のとらえられ方は、両親の関係の実態が回答に直接反映していることが確認され、両親が離婚・離別している可能性の高い「片親のみ別居」および「片親のみ不詳」の場合、回答者である子どもは、親の夫婦関係をうらやましく思わない傾向があるという予想通りの結果がみられた。

## 2. 分析2：結婚意欲の順序回帰分析の結果—周囲の結婚のとらえ方および結婚・子育てとの「接触」との関連

次に、分析1でみてきた①親の夫婦関係羨望、②既婚友人の幸福の認識、③子育て中の人との接触、④結婚・子育ての情報との接触が、結婚意欲に関連しているかを、社会経済的属性や異性との交際状況、結婚・家族観、欲しい子どもの数など、これまでの研究から結婚意欲に関連しているとわかっている要因をコントロールした上で分析した結果を示す。表7に分析で用いた変数の記述統計を示す。カテゴリカル変数については各カテゴリーが占める割合を%で示し、連続変数については平均値、標準偏差、最小値と最大値を示す。

順序回帰分析の結果は、表8に示すとおりである。本稿での分析対象の周囲の結婚への評価や結婚との接触を示す4項目の係数をみると、男女とも結婚している友人を幸せだととらえることが、統計

表7 結婚意欲（結婚への意識距離）を従属変数とした順序回帰分析に含まれる変数の記述統計量

| 【カテゴリカル変数】          | 男性(n=2443) 女性(n=2256) |      |       |     |     |
|---------------------|-----------------------|------|-------|-----|-----|
|                     | %                     | %    |       |     |     |
| 結婚意欲（従属変数）          |                       |      |       |     |     |
| 一生結婚しない             | 8.6                   | 7.3  |       |     |     |
| 相手志向かつまだしたくない       | 18.7                  | 16.9 |       |     |     |
| 年齢志向かつまだしたくない       | 20.5                  | 19.4 |       |     |     |
| 相手志向かつ理想の相手なら       | 24.0                  | 28.5 |       |     |     |
| 年齢志向かつ理想の相手なら       | 18.0                  | 15.2 |       |     |     |
| 一年以内に結婚したい          | 10.2                  | 12.7 |       |     |     |
| 教育レベル               |                       |      |       |     |     |
| 中学校                 | 4.7                   | 2.3  |       |     |     |
| 高校（共学）#             | 27.3                  | 20.1 |       |     |     |
| 高校（別学）              | 8.1                   | 7.8  |       |     |     |
| 専修学校（高卒後）           | 11.9                  | 13.9 |       |     |     |
| 短大・高専               | 5.5                   | 26.4 |       |     |     |
| 女子大学                | /                     | 6.4  |       |     |     |
| 大学（共学）・大学院          | 42.5                  | 23.0 |       |     |     |
| 就業形態                |                       |      |       |     |     |
| 正規の職員#              | 59.3                  | 48.8 |       |     |     |
| パート・アルバイト           | 8.9                   | 14.2 |       |     |     |
| 派遣・嘱託・契約社員          | 6.4                   | 12.7 |       |     |     |
| 自営業主・家族従業者・内職       | 8.1                   | 2.8  |       |     |     |
| 無職・家事               | 7.5                   | 7.4  |       |     |     |
| 学生                  | 9.7                   | 14.2 |       |     |     |
| 異性との交際状況            |                       |      |       |     |     |
| 交際している異性はいない#       | 58.2                  | 48.8 |       |     |     |
| 友人として交際している異性あり     | 14.7                  | 14.5 |       |     |     |
| 恋人として交際している異性あり     | 24.1                  | 33.7 |       |     |     |
| 婚約者がいる              | 3.0                   | 5.1  |       |     |     |
| 親との同居・父母の状態         |                       |      |       |     |     |
| 同居-同居・同居-死亡         | 62.4                  | 71.0 |       |     |     |
| 1人の親についての不詳         | 4.0                   | 2.3  |       |     |     |
| 一人の親のみ別居（同居-別居）     | 2.6                   | 4.6  |       |     |     |
| 両親とも不詳・別居・死亡、別居-死亡# | 31.0                  | 22.2 |       |     |     |
| 現在同棲中               | 1.7                   | 2.3  |       |     |     |
| 親の夫婦関係羨望：肯定的        | 55.1                  | 57.0 |       |     |     |
| 既婚友人幸福感認識：肯定的       | 65.5                  | 68.0 |       |     |     |
| 子育て中友人・きょうだい多い      | 50.9                  | 48.3 |       |     |     |
| 結婚・出産・子育て負担情報多い     | 75.2                  | 78.2 |       |     |     |
| 【連続変数】              |                       |      |       |     |     |
|                     |                       | 平均値  | 標準偏差  | 最小値 | 最大値 |
| 年齢                  | 男                     | 29.5 | 7.23  | 18  | 49  |
|                     | 女                     | 27.3 | 6.87  | 18  | 49  |
| 結婚・家族観              | 男                     | 2.07 | 0.477 | 1   | 4   |
|                     | 女                     | 2.28 | 0.495 | 1   | 4   |
| 欲しい子どもの数            | 男                     | 1.92 | 0.861 | 0   | 5   |
|                     | 女                     | 1.93 | 0.913 | 0   | 5   |



表 8 結婚意欲（結婚への意識距離）の順序回帰分析の結果

|                            | 男性         |       | 女性         |       |
|----------------------------|------------|-------|------------|-------|
|                            | B          | 標準誤差  | B          | 標準誤差  |
| 年齢                         | 0.357 ***  | 0.045 | 0.411 ***  | 0.047 |
| 年齢の二乗                      | -0.005 *** | 0.001 | -0.006 *** | 0.001 |
| 教育レベル                      |            |       |            |       |
| 中学校卒                       | -0.349 +   | 0.185 | -0.391     | 0.271 |
| *共学高校                      | 0.000      | 0.000 | 0.000      | 0.000 |
| 別学高校                       | 0.244 +    | 0.147 | -0.318 *   | 0.163 |
| 専修学校                       | -0.079     | 0.128 | -0.190     | 0.135 |
| 短大・専門学校                    | 0.057      | 0.173 | 0.109      | 0.116 |
| 女子大                        |            |       | -0.147     | 0.178 |
| 大学                         | -0.113     | 0.097 | -0.149     | 0.126 |
| 就業形態                       |            |       |            |       |
| *正規職員                      |            |       |            |       |
| パート                        | -0.792 *** | 0.135 | 0.006      | 0.118 |
| 派遣                         | -0.371 *   | 0.152 | -0.083     | 0.121 |
| 自営                         | -0.273 *   | 0.138 | -0.097     | 0.239 |
| 無職                         | -1.013 *** | 0.145 | -0.686 *** | 0.155 |
| 学生                         | -0.710 *** | 0.154 | -0.687 *** | 0.145 |
| 異性との交際状況                   |            |       |            |       |
| *交際している異性なし                |            |       |            |       |
| 友人として異性と交際                 | 0.134      | 0.107 | 0.103      | 0.114 |
| 恋人として交際                    | 0.499 ***  | 0.092 | 0.446 ***  | 0.089 |
| 婚約者あり                      | 3.389 ***  | 0.289 | 3.136 ***  | 0.227 |
| 親との同居・親の状況                 |            |       |            |       |
| *両親とも不詳・別居・死亡，別居-死亡        |            |       |            |       |
| 同居-同居・同居-死亡                | -0.108     | 0.085 | 0.109      | 0.099 |
| 一人の親のみ別居（同居-別居）            | 0.120      | 0.200 | 0.095      | 0.269 |
| 一人の親についてのみ不詳               | -0.134     | 0.239 | -0.260     | 0.199 |
| 欲しい子どもの数                   | 0.605 ***  | 0.046 | 0.401 ***  | 0.047 |
| 同棲中                        | 0.459      | 0.314 | 0.509 +    | 0.278 |
| 結婚・家族観                     | -0.805 *** | 0.084 | -0.858 *** | 0.084 |
| 親の夫婦関係うらやましい               | -0.071     | 0.078 | 0.063      | 0.080 |
| 既婚友人幸せそうと思う                | 0.469 ***  | 0.081 | 0.436 ***  | 0.085 |
| 子どもをもつ友人・きょうだい多い           | 0.232 **   | 0.084 | 0.178 *    | 0.086 |
| 結婚・出産・子育て大変と聞いている          | -0.039     | 0.086 | -0.017     | 0.094 |
| 切片 1                       | 2.663 ***  | 0.742 | 2.601 ***  | 0.752 |
| 切片 2                       | 4.339 ***  | 0.744 | 4.233 ***  | 0.753 |
| 切片 3                       | 5.449 ***  | 0.747 | 5.306 ***  | 0.756 |
| 切片 4                       | 6.712 ***  | 0.750 | 6.785 ***  | 0.761 |
| 切片 5                       | 8.223 ***  | 0.755 | 8.002 ***  | 0.765 |
| ケース数                       | 2443       |       | 2256       |       |
| $\chi^2$ 二乗値               | 897.8      |       | 801.3      |       |
| 自由度                        | 25         |       | 26         |       |
| 疑似決定係数 $R^2$ (Cox & Snell) | 0.308      |       | 0.299      |       |

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , +  $p < .10$

的に有意に結婚意欲を高めていることがわかる。また、子育て中の人との接触との関連も統計的に有意であり、子育て中の友人やきょうだいが周りに多いという人の方が、結婚意欲が高いことを示している。親の夫婦関係のとらえ方や周りから結婚や子育てについての（否定的な）情報を得ていることと、結婚意欲との関連性は認められなかった。

他の変数と結婚意欲との関連をみると、結婚・家族観については値が大きい、つまりリベラルな考えを持つ人ほど結婚意欲が低い傾向が、男女ともにみられる。また、欲しい子どもの数が多いこと、異性の恋人または婚約者のいることは、結婚意欲を高めることが示された。就業形態をみると、男女とも無職または学生の場合は、正規の職員よりも結婚意欲が低く、男性では、パート・アルバイト、派遣等、自営業主等であることが結婚意欲を低めているとの結果がみられる。男性では、正規の職員であるか否かが結婚意欲に違いをもたらしているといえよう。教育レベルでみると、男性では共学高校卒の人に比べると、

中学校卒の人は結婚意欲が低く、逆に別学高校卒の人は結婚意欲が高いことがわかる。女性では別学高校卒であることが、結婚意欲を低めるとの結果がみられる。現在同棲中であることは、女性のみで結婚意欲を高めている。年齢の係数は正、年齢の二乗の係数は負でどちらも統計的に有意であり、年齢と結婚意欲の関係は逆U字型であることが確認された。親との同別居や親夫婦の状況との関連はみられなかった。なお、男女とも疑似決定係数  $R^2$  は0.3前後であり、モデルとしての説明力も比較的高いといえる<sup>4)</sup>。

## V. まとめと考察

本稿では、結婚を経験していない未婚の人の身近な人の結婚のとらえ方や、日常生活で結婚や子育てにどの程度接触しているかの実態をとらえ、次にこれらの側面と結婚意欲との間には関連があるか否かを検討してきた。その結果、親や友人といった身近な人の結婚のとらえ方や、結婚や子育てとの接触の状況は、社会経済的屬性によって異なる部分があること、ならびにこれらの側面は、結婚意欲に関連していることが見いだされた。以下では、分析の結果から得られたいくつかのポイントを取り上げ、考察を行なう。

まず、第一の点は、身近な人の結婚のとらえ方や結婚・子育てとの接触状況には、教育レベル、特に大学・大学院卒か否かということが強く関連していることである。他の要因をコントロールした場合、大学・大学院卒の人は、親や友人の結婚を肯定的にとらえる一方で、結婚等の情報や子育てをしている人との接触が少ない傾向がみられた。理論的に考えると、教育を受け続ける過程で物事に対する批判的な視点を持つようになり、「結婚」というものを無条件にあるいは盲目的によいものだと見なさなくなる可能性があると考えられるので、親や友人の結婚を否定的にとらえる結果がみられてもよいはずであるが、ここでは逆の結果がみられた。ここで観察された結果は、結婚・家族観の要因をコントロールした上でのものであるため、教育を通じた考え方への影響による部分は小さい可能性がありうる。もしそうであるとすればここで観察された関係性の背景には、リベラルか従来の考え方をするかによる違いではない、別のメカニズムが働いていると考えられる。本稿の分析からそのメカニズムについて言及することは難しいが、たとえば、教育レベルの高い人は親との関係が良好なので、夫婦関係に限らず、親のことをよく評価する傾向がある可能性も考えられる。

---

4) 金子 (1994) は、第9回 (1987年実施) と第10回 (1992年実施) の出生動向基本調査のデータを用いて、18歳から34歳までの未婚者の結婚からの意識距離 (本稿における「結婚への意識距離」とは逆に、値の小さい方が結婚からの意識距離が短い、つまり結婚意欲が高くなるようにコードしている)、年齢、学歴、職業、人口集中地区分類、地方、親との同別居、続き柄、異性との交際、性経験の有無を考慮した重回帰分析を行なっている。金子の得た結果のうち、年齢の高い人の方が、結婚意欲が高い、学生の場合は結婚意欲が低い、恋人や婚約者のいる人の結婚意欲が高いとの結果は、ここで得られたものと一致している。しかし、金子の分析結果でみられる第9回 (1987年) の、別学高校卒であることは男性の場合は結婚意欲を下げ、女性の場合は高くなるとの結果は、ここでみられたものと逆である。共学と別学高校の環境や教育方針、それぞれのタイプの学校に行く人の背景などが1987年と2005年では異なることは十分考えられる。また9回の分析結果にみられる親と同居している人の方が、結婚意欲が高いとの結果は、ここで分析では観察されなかった。

大学・大学院卒の人は、比較的結婚や子育てとの接触が少ないとの結果については、友人やきょうだいもやはり大学や大学院を卒業した人が多いと考えられるので、彼ら彼女らの現状として、周りの友人やきょうだいで子育てをしている人が比較的少ないのではないかと思われる。結婚・子育てに関する情報との接触も少ないとの結果については、大学・大学院卒の人は、結婚・出産・子育てについて、「たいへんだ」という否定的なメッセージのみでなく、その他の情報も得ており、それがここでの結果に影響している可能性が考えられる。

第二の点は、様々な社会経済的属性の影響を考慮しても、未婚の人の身近な人の結婚のとりえ方や結婚・子育てとの接触状況には、結婚・家族観がリベラルであるか従来的であるかということが、強く関連していることである。ここでいう結婚・家族観は、具体的な結婚や子育てについての意見ではなく、それぞれの人の一般論としての考え方であるが、その考え方と身近な結婚や子育てに対する見方とが、関連しているという結果は予想のつくものである。結婚・家族に対する意識を考慮する際は、一般的な結婚・家族観に加え、人々の実生活により密着している状況についてのとりえ方や経験的なものも含めて総合的にとらえることが必要だと思われる。

第三の点は、結婚意欲には身近な結婚のとりえ方が関連していることである。この結果は、結婚意欲には、経済的・心理的負担感やコスト感という、いわゆる利害的なことのみでなく、結婚に対するイメージや印象も関わっていることを物語っている。社会経済的屬性や結婚・家族観など、結婚意欲に影響する他の要因をコントロールしても、実際に結婚した身近な人が幸せそうであると感じることが、未婚の人の結婚意欲を高めることができる。

第四の点は、身近な人の結婚のとりえ方に関しては、誰を対象にしているかによって結婚意欲との関連性が異なることである。友人の結婚をどのようにとらえるか（結婚している友人は幸せそうか否か）と結婚意欲との関連はみられたが、親の夫婦関係のとりえかたとの関連はみられなかった。この結果は、結婚について考える際は、年代の近い友人を準拠集団とし、親は、世代が異なる上に子どもにとって特別な役割を担っているので、その結婚のあり方は子どもの結婚意欲には影響しないとの解釈が可能であろう。その一方で、これまでの質的調査等において指摘されたように、親の結婚をどのようにとらえるかは、子どもの結婚意欲になんらかの形で影響するが、その影響のあり方は本稿で行った形の分析では見いだすことのできない複雑なものであるという可能性もある（釜野 2004）。「親の夫婦関係がうらやましくないので、自分は結婚して親夫婦とは異なる関係を作りたい」、「親の関係はうらやましいが、自分はそのような関係を作る自信がないので、結婚したくない」など、関連性があってもその方向性や背景は多様であると思われる。ここでの分析ではそれらの関連性が多角的に作用したために、関連性がみいだされなかった可能性は否定できない。

また関連性の有無に関わらず、親の夫婦関係のとりえ方の測定自体にも困難があると思われる。たとえば親夫婦の関係についての項目への回答には、夫婦間についての「純粹」

な評価ではなく、親たちに対する複雑な気持ちが混入する可能性もある。また、今回用いた指標（うらやましいという感覚）は、「よいと思うか否か」という次元に、本人が何を望んでいるかの反応も加わっている可能性もある。したがってこの項目のみで親夫婦の関係のとらえ方を測るのは難しいと考えられる。

第五点目は、周りに子育てをしている友人やきょうだいが多いことも結婚意欲を高めることに貢献していることである。この結果は、社会経済的な属性や結婚・家族観等の影響をコントロールしても、日常的な環境が結婚意欲に影響することを示唆している。子育てをしている人が周りに多ければ多いほど、その環境に暮らす人は子育てを当然のことと見なすようになり、その経験がその環境で肯定されているのを感じ取ることにつながると思われる。つまりそのような環境においては子育てをしていること・している人がマジョリティであるという雰囲気ができあがり、その社会に暮らす人の子育てへの関心や意欲を高めると考えることができる。子育てのほとんどが結婚の枠の中で行われる日本においては、結婚意欲を高めることにつながっていると思われる。

本稿では、結婚を実際に経験したことの無い未婚の人について、身近な人の結婚のとらえ方や結婚や子育てとの「接触」の状況を把握し、これらのとらえ方や「接触」の状況は、結婚意欲と関連していることをある程度示すことができた。この関連性についてさらに研究を進める必要があると考える。そのためにはまず、身近な人の結婚のとらえ方や結婚・子育てとの接触の指標を検討することが必要だと考える。たとえば、上記の第四点目にも関わるが、親の結婚関係を肯定的にとらえるか否かについて多角的に測定する指標を探る必要がある。結婚・子育てとの接触についても、情報についてはその情報源や内容を多角的に測定、また経験者との接触についてもその指標を検討することが重要であろう。さらに今後考慮すべき点として、結婚意欲そのものが、周りの人の結婚のとらえ方やどの程度結婚・子育て関連の情報に敏感であるか、ということに影響している可能性を挙げておきたい。もともと結婚したいと思っている人は、親の夫婦関係をよくとらえる、結婚している友人たちを幸福だと思う、結婚や子育てに関心があり、子育てしている人の存在に敏感になる・そういう友人を周りに置くようになる、関連する情報をキャッチする傾向があるという可能性もある。したがって身近な人の結婚の捉え方と結婚等との接触と、結婚意欲との相互作用を組み込んだ分析を行なっていくことが重要だと考える。

## 参考文献

Blakemore, Judith E. Owen, Carol A. Lawton, and Lesa Rae Vartanian (2005) "I can't wait to get married: gender differences in drive to marry", *Sex Roles* Vol.53, No.5/6, pp.327-335.

江原由美子 (2004) 「ジェンダー意識の変容と結婚回避」, 目黒依子, 西岡八郎編『少子化のジェンダー分析』(双書 ジェンダー分析4), 勁草書房, pp.27-50.

福田節也 (2006) 「独身者の結婚意欲ならびに有配偶者の希望子ども数に関する分析: 『21世紀成年者縦断調査』を用いた分析事例」, 金子隆一編『パネル調査(縦断調査)のデータマネジメント方策及び分析に関する総合的システムの開発研究』(厚生労働科学研究統計情報高度利用総合研究事業 平成16~17年度総合研究報

- 告書), pp.343-367.
- 早瀬保子 (2005) 「ジェンダーに関する意識と実態」, 毎日新聞社人口問題調査会編『超少子化時代の家族意識：第1回人口・家族・世代世論調査報告書』毎日新聞社, pp.214-246.
- 市川直美 (2005) 「青年期における母親(父親)との関係および両親の結婚生活に関する認識と結婚観, 家族観との関連についての一考察」『臨床教育心理学研究』Vol.31, No.1, p.19.
- 石村卓夫, 謝承泰, 久保田基夫 (2003) 『SPSSによる医学・歯学・薬学のための統計解析』東京図書株式会社.
- 岩間暁子 (1999) 「晩婚化と未婚者のライフスタイル」『人口問題研究』第55巻第2号, pp.39-58.
- 釜野さおり (2004a) 「独身女性の結婚意欲と出産意欲」, 目黒依子, 西岡八郎編『少子化のジェンダー分析』(双書 ジェンダー分析4), 勁草書房, pp.107-149.
- 釜野さおり (2004b) 「独身男女の描く結婚像」, 目黒依子, 西岡八郎編『少子化のジェンダー分析』(双書 ジェンダー分析4), 勁草書房, pp.78-106.
- 金子隆一 (1994) 「結婚の意思」, 厚生省人口問題研究所編『独身青年層の結婚観と子供観—第10回出生動向基本調査—』, 厚生統計協会, pp.11-24.
- 金子隆一 (2000) 「結婚意欲に基づく初婚モデル開発—1. 結婚意欲の測定, および初婚ハザードの推定—」, 高橋重郷編『少子化に関する家族・労働政策の影響と少子化の見通しに関する研究』厚生労働政策科学推進研究事業平成11年度報告書, pp.13-33.
- 国立社会保障・人口問題研究所編 (2007) 『わが国独身層の結婚観と家族観—第13回出生動向基本調査—』厚生統計協会
- 小林淑恵 (2006) 「結婚・就業に関する意識と家族形成—循環モデルによる検証—」『人口学研究』第33号, pp.1-18.
- Mahay, Jenna (2003) "What a difference a year makes: age and the desire to marry", *American Sociological Association Annual Meeting*. Atlanta, GA.
- 夏目寧子 (2006) 「両親の夫婦関係と子どもの異性関係に関する研究—コミットメントを中心に—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 心理発達科学』(平成17年度心理発達科学専攻修士学位論文概要) Vol.53, pp.243-245.
- Tallman, Irving, Thomas Rotolo, and N. Louis Gray (2001) "Continuity or change? The impact of parents' divorce on newly married couples", *Social Psychology Quarterly* Vol. 64, No.4, pp.333-346.
- Thornton, Atland (1991) "Influence of the marital history of parents on the marital and cohabitational experiences of children", *American Journal of Sociology* Vol.96, No.4, pp.868-894.
- 宇都宮博 (1999) 「青年がとらえる両親の夫婦関係—親子関係, 家族システムとの関連—」『日本家政学会誌』Vol.50, No.5, 455-463.
- 宇都宮博 (2005) 「女子青年における不安と両親の夫婦関係に関する認知—子どもの目に映る父親と母親の結婚生活コミットメント」『教育心理研究』第53巻, 第2号, pp.209-219.
- Wallin, Paul (1954) "Marital happiness of parents and their children's attitude to marriage", *American Sociological Review* Vol.19, No.1, pp.20-23.

# Feelings about Parental and Friends' Marital Relationships and Exposure to Marriage and Childrearing: Analyses of Perception of Marriage and Desire to Marry

Saori KAMANO

Using the data of never-married persons from the 13<sup>th</sup> National Fertility Survey conducted in 2005 by the National Institute of Population and Social Security Research, I examined two areas relevant to perception of marriage, namely, (1) one's feelings about the married lives of people around [(a) whether one envies parents' marital relationships; and (b) whether one finds friends who are married happy], and (2) the extent to which one has exposure to marriage and childrearing in daily life [(c) whether one has many friends and siblings who are raising children, and (d) whether one often hears from the mass media and people around that marriage, childbirth and raising children are difficult work].

I first examined the relationships between these four variables and socio-economic factors, such as age, level of education, employment status, as well as other factors, such as heterosexual partnership status, whether one's parents live together and attitudes toward marriage and family, through cross-tabulation analyses and ordered logit analyses. Major findings include first, whether one has graduated from university contributes to a positive evaluation of parents' marital relationships and lowers the tendency of being surrounded by friends and siblings who are raising children; second, having more liberal attitudes toward marriage and family lowers one's evaluation of other people's marital relationships and lowers the tendency of being surrounded by friends and siblings who are raising children.

Next, I undertook an ordered logit analysis to examine the effects of the four variables [(a) to (d) above] on one's willingness to marry, which is measured by a 6-point scale of the attitudinal closeness to marriage, ranging from having no intention to marry to wanting to get married within a year. The statistically significant effects indicate that perceiving friends who are married as being happy and having had many friends and siblings who are raising children increase one's desire to marry, even after controlling for various factors, including age, level of education, employment status, heterosexual partnership status, whether one's parents live together, the attitudes toward marriage and family, the number of children desired, and whether one is cohabiting. The findings confirmed the importance in the research examining desire to marry and the perception of marriage in general of looking at the subjective feelings toward marriage as well as personal contact with people experiencing marriage and exposure to information about marriage and childrearing. It was suggested that in future research, it is necessary to develop better indicators that can capture complex and multi-dimensional feelings about marital relationships of parents and friends and personal exposure to marital experiences. In addition, it is necessary to analyze a model that takes into an account reciprocal relationships between desire to marry on the one hand, and the feelings about parental and friends' marital relationships and the amount of exposure to marriage and childrearing on the other.